

令和7年度
戸田市立戸田東小学校
学校経営方針及び重点・努力点

自律 自走と共創



全ての人を
笑顔(Well-being)にする
戸田東小学校

令和7年4月1日(月)





令和7年度戸田市立戸田東小学校学校経営方針

◇戸田市教育大綱(R3制定 市長部局)

共に「つくり まもり つなぐ」教育のまち 戸田

◇第4次戸田市教育振興計画(R3～R7)

【基本理念】生き生きと 共に育む 教育のまち 戸田

【キャッチフレーズ】～とだっ子 やり抜く力で 未来に夢を～

方針1 子供たちが可能性に挑戦し続ける力を育むための学びの実現

方針2 多様性を尊重し、全ての子供たちが力を発揮できるような誰一人取り残さない学びの保障

方針3 地域・家庭・産官学民などの多様な主体による学びの提供

方針4 個別最適な学びの実現に向けたEBPMの推進

■小中学校共通目標 「グローバル社会で 将来豊かに生き 活躍できる 児童生徒の育成」

1 学校の教育目標 ■全ての人を笑顔(well-being)にする学校

自律に向けて自走・共創

- 自分が好き 自ら考え、選び、行動する子
- ひとを大切にする 多様な集団の中で他者を尊重し協働する子
- 未来をつくる しなやかな発想で自分の可能性を拓ける子

【育成する資質・能力】

20年後の未来社会で活躍できる子の育成 変化にしなやかに対応できる変化を創る人財
・思考力 ・表現力 ・協働力

2 めざす学校の姿 ■「かんどう」のある学校

- 子供たちが「感動」する学校
- 教職員が「歓動」する学校
- 地域・保護者の「汗動」に支えられる学校
- すずめの学校からめだかの学校へ

【めざす学校 具体の姿8】

- ①一人一人の子供を見つめ 多様性を尊重する学校
- ②教育の本質を踏まえ 生きて働く知識・技能、思考・判断・表現力、学ぶ意欲を育む学校
- ③教師自らが資質向上を目指し主体的・対話的な研究と着実な教育実践を進める学校
- ④児童も教師も心身ともに健康で 安全・安心・快適・笑顔あふれる学校
- ⑤全教育活動で自律に向け創意工夫し ICTの文房具的活用をする学校
- ⑥厳しさ・やさしさ・気品 そして 充実とゆとりのある学校
- ⑦家庭・地域と共に創る コミュニティスクール
- ⑧義務教育9年間を見通した 施設一体型小中一貫教育を進める学校

3 めざす教師の姿 ■「教えの専門家」「学びの専門家」信念と誇りをもって学び続ける教師

- 確かな指導力 子供のよさをのばそう
 - 豊かな人間性 子供の心を耕そう
 - 向上心・同僚性 研究と修養に努め互いに磨き合い高め合おう
 - 協働性 組織の一員としての自覚をもって果敢に課題解決に臨もう
 - 誠実さ 保護者や地域の思いや願いを大切にしよう
 - ワークエンゲージメント 働きがい高めよう
- 「仕事から活力を得ていきいきとしている」(活力)
「仕事に誇りとやりがいを感じている」(熱意)
「仕事に熱心に取り組んでいる」(没頭)

●ティーチャーからファシリテーターへ

ほめて伸ばす 是非は明確に、よい行動をまわせる ABC 理論で
よさをみつける 課題把握はしておく
自信や勇気を与える すべての子供に
話をよく聴く 公正に
多様性と包摂性 「ふつう」はない

●プラスのループ・子供へのプラスのフィードバック

教師の姿を子供が真似る・多様性と包摂性のあるクラスの雰囲気

4 学校の経営方針 ■学校を人が育つ場とする

【戸東フィロソフィ】

Mission: 全ての人を笑顔 (Well-being) に—自律—

Vision: 「令和の新しい学びのカたち」—子供を主人公に 教師は学びの伴走者—

Concept: 『自走・共創』

【Grand rule:】人が育つ持続可能な学校を目指して

1 全ての判断基準は「子供の立場」

★Supply Side から Demand Side へ

2 スクラップを躊躇しない

★なぜ? なんのために? を大切に Why→What→How

★重要性 > 緊急性 モグラたたきばかりしていても本質追求しないと解決しない

3 学び合う学校文化に

★Just Do it! やってみなはれ

4 失敗から学ぶ組織に

★失敗は成功への第1歩 失敗やミスの情報共有を

★「学校は安全な失敗」ができるところ

5 変化をおもしろがる 変化を創る

★現状把握力 > 決断力 データがなければわからない

★小さな当たり前の問い直しを積みかさねることが進化へつながる

6 鳥の目・魚の目・虫の目 + コウモリの目 と 猫の目

俯瞰・流れ・微視+逆さま・迅速に

★当たり前を疑う目と変化に迅速に対応する目をもって

【学校経営のコンセプト:】

■プロジェクト型経営 —自走・共創する組織—

★全員参加のミッション型組織による学校運営 <組織改革>

1 目的の共有 目標の協働

2 スピードのある対応 R-PDCA の実現

3 個々職員のクリエイティブ パワーの発揮

4 ミドルリーダーのマネジメント力育成

5 内部通報のできる 風通しのよい組織

☆ 負担「感」の軽減

●プロジェクトリーダーによる自走共創

・メンバーの「ジブンゴト化」による自走共創

・単なる会議・話合いではなくその場で学ぶ・研修の場

(新たな見方考え方・授業技術・指導技術・対応技術)

・プロジェクト→小部会→プロジェクト

・プロジェクト(縦展開)を学年会等へ(横展開)



令和7年度戸田市立戸田東小学校学校経営の重点・努力点
全ての人を笑顔(Well-being)にする戸田東小学校
—自律に向け自走・共創—

★5つの重点

プロジェクト型・ミドルリーダーのアップ・ダウンマネジメントで

1 GIGA 第2フェーズにおける「令和の学び」の実現

「もくもく・わいわいする学びづくり」プロジェクト A ※学校課題研究

研究テーマ 未来社会を創造する児童生徒の育成

～小中9年間を見通した探究的な学習を充実させるために～

- ・「未来をつくる」子供が主語の学び(多様な学び方、非同期型授業への挑戦)
- ・ICTの文房具的活用による個別最適な学びと協働的な学びの実現
 - ① 資質・能力ベースの探究学習の推進(新しい学びのカタチ)
 - ② PBLの進化・STEAMへの深化(地域課題の解決)
 - ③ STEAMを視点に教科の見方・考え方を育成
 - ④ 教科横断的な学び(カリキュラム・マネジメント)
 - ⑤ 主体的・対話的で深い学びの充実(問いとファシリテーション)
 - ⑥ 学習評価(リフレクション・ルーブリック)の活用
 - ⑦ 外部連携による実社会につながる学び(アプリの活用)
 - ⑧ 一実践・視察の授業公開とフィードバック(見られることで磨かれる)

2 自律型生徒指導の推進と相談体制の充実

「わくわく・にこにこする学校づくり」プロジェクト B

- ・誰一人取り残されない公正な学びの実現
- ・「自分が好き」自己肯定感と自己有用感の醸成
- ・「ひとを大切に」多様性と包摂性の尊重(ダイバシティ・エクイティ&インクルージョン)
 - ① 行動の背景を探り、よさに着目する生徒指導(SWPBSの推進-School Wide Positive Behavior Support-)
 - ② 自己指導能力を育む学級・学年経営の充実(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定)
 - ③ いじめ防止と早期発見・対応(見逃さない見捨てない見て見ぬふりをしない)
 - ④ 「全ての人を笑顔に」自ら企画・実践・振り返る子供(SWPBLでよさのループをつくる)
 - ⑤ 教室環境と学びのユニバーサルデザイン化
 - ⑥ 個々のニーズに応じた個別最適な学びの実現(なのはな学級・ことばの教室・日本語教室・ぱれっとルーム・room-K)
 - ⑦ 多様性・公正性と包摂性の理解・尊重
 - ⑧ 特別支援教育の推進と「交流及び共同学習」の充実
 - ⑨ 相談・支援体制の強化(教育相談・就学相談)

3 心身の健康増進を図る教育活動

「うきうき・もりもりする健康づくり」プロジェクト C

- ・子供も職員も心身ともに健康な生き方づくり
- ・自分の心、体、命を大切にする教育の推進
- ・自ら安全な生活を営むことのできる安全教育と安全管理の徹底
 - ① 生涯スポーツの素地をつくる運動の楽しさや喜びを味わわせる体育授業
 - ② 養護教諭・栄養教諭の専門性を活かした保健・食育授業

- ③ 関係機関・外部連携を生かした命を守る授業
- ④ 確実なアレルギー・怪我・校内事故対応
- ⑤ 戸東小のきまりによる危険予測・法令順守教育(きまり廊下歩行・登下校等)
- ⑥ 自助・共助・公助でいのち・人権を守る教育の推進
- ⑦ 家庭・地域社会と連携した子供の安全を守る環境づくり
- ⑧ 防災教育の工夫・改善

4 戸東小 DX の推進

- 「サクサク・すいすい進む業務遂行づくり」プロジェクト D
- ・未来を共創する ICT 活用(学び GIGA・児童支援 GIGA・校務 GIGA)
 - ・保護者・地域と連携した DC 教育の推進
 - ① 一人一台端末の文具的活用による個別最適な学びと協働的な学び
 - ② 電子黒板ホワイトボードプロジェクターの効果的活用
 - ③ デジタル AI ドリル活用で習熟プリント廃止
 - ④ 教育クラウドの効果的な活用及び家庭とシームレスにつながる学び
 - ⑤ メディアリテラシー・デジタルシティズンシップ教育の推進
 - ⑥ デジタルアウトプット作品・成果物のブラッシュアップ(STEAM Lab活用)
 - ⑦ 校務のデジタル化の推進による校務能率アップ
 - ⑧ デジタル掲示物の充実(児童・保護者の鑑賞とフィードバック)

5 働き方改革の推進と家庭・地域社会との共育体制の充実

- 「Well-being な職場づくり」プロジェクト E
- ・業務・行事改善+創造的余白+ライフの充実
 - ・時間的・精神的ゆとりと倫理ある職場風土づくり
 - ・コミュニティスクールによる共育体制の充実
 - ① 心理的安全が図られヘルプとサポートが出せる職場
 - ② 最上位目標を意識し、セルフマネジメントで50cm業務・行事改善
 - ③ 地域を学びの場とした学びの充実(地域の人、場所、ものとの交流)
 - ④ CS・学校応援団等地域・保護者・民間の力を生かした教育活動心理的安全が図られヘルプとサポートが出せる職場
 - ⑤ 保護者参加型授業参観・「対話のある」懇談会で学校・児童理解
 - ⑥ HP,FB,H&S 等による積極的情報発信と情報共有
 - ⑦ 学校評価を活かした学校経営改善
 - ⑧ 二項往還する地域の教育力と学校力

★3つの努力点

1 変化にしなやかに対応する学校組織力の向上

—ミドルによるアップ・ダウンマネジメント—

- ① プロジェクトへの権限移譲と目的の共有・目標への協働
- ② 「ジブンゴト」として考え、「最上位目標」を意識した対話につとめる
- ③ 共通行動と報告・連絡・相談・確認の徹底
- ④ 強みと弱みを補完するチームワーク
- ⑤ プロジェクトベースで進める校務分掌運営

2 キャリアステージに応じた教員研修の実践と OJT で成長する資質・能力

—ヘルプとサポートが出せる職場づくりと学びの充実—

- ① 自己申告シートにおける達成目標の焦点化と日常実践の振り返り
- ② 「令和の新しい学びのカたち」と「一人一主任業務」への挑戦
- ③ 人にやさしく、仕事にきびしく、抱え込まずにヘルプとサポート
- ④ 学び合い 高め合う 研究の推進

⑤ 課題の可視化と解決策のシステム化による経営政策能力の向上

3 なりたい仕事No.1・憧れられる教師としてのロールモデル

—働き方 DX の推進 と コンプライアンスの徹底—

- ① 楽しく仕事をしよう 笑顔で子供の前に
- ② セルフマネジメント 時間外勤務45時間以内(毎月)
- ③ 早期立案と見通しの明確化 重要性≧緊急性
- ④ 校務の合理化・効率化 Google for Education の更なる活用
- ⑤ 信用失墜行為の根絶・早期発見・迅速・的確な初期対応
さ 最悪を想定して サービス精神に徹する
し 慎重に対応 迅速な対応
す 素早く対応 水面下にも気を配る
せ 誠意をもって対応 誠意をもって対応
そ 組織的な対応 相談しやすい態度で

■サービスの基本 ～保護者・地域からの信頼を得る～

- (1) 法令・法規に基づき、教育公務員としての自覚を高め、公私の区別を厳しく行い服務専念の義務を果たす
- (2) 出勤簿の捺印、退勤時の施設・文書の保全管理等の徹底
- (3) 年休届けの提出、出張の報告・復命、各種願、報告等の迅速な対応
- (4) 信用失墜行為、教職員事故を絶対に起こさない決意
- (5) 体罰、不適切な指導の根絶(思い上がった指導はないか、物理的・心理的距離感)
- (6) 情報漏洩に注意(情報セキュリティポリシーの遵守)
- (7) 交通事故防止(乗車中は心の安心、飛び出すことが前提、法令遵守、焦らず連絡)
- (8) あらゆるハラスメントの根絶(人の前に立ち、「先生」と呼ばれる責任)

さ	い	た	ま	の	ひ	の	こ	わ(は)	の根絶
酒	異性	体罰	マネー		非 違 行 為		個 人 情 報 漏 洩	わ い せ つ 事 故	ハ ラ ス メ ン ト

■勤務時間及び休憩時間等

(1) 勤務時間(勤務開始時刻及び終業時刻) 8:30 ～ 17:00

(2) 休憩時間(6時間以上勤務する場合の)

A月曜日課の日(月曜日・金曜日)

14:45～15:30(45分間)

【会議・研修・研究等 15:30～17:00(90分間)】

B最終学年が6時間授業の日(火から木曜日)

15:30～16:15(45分間)

【会議・学年会・職員集会・教材研究等 16:15～17:00(45分間)】

C休業日または児童が給食なしで下校する日

12:15～13:00(45分間)

ことばの教室・事務職員

12:20～13:05(45分間)

(3) 定時退勤日 原則毎週金曜日及びふれあいデー(原則21日・給与支給日)

※定時退勤推奨ウィークの実施(1月下旬エデュケーションウィーク)

(4) 出勤時・退勤時に挨拶と共に打刻し、自己の在校時間を把握し、よりよい働き方を考える。

上限月45時間、年間360時間をもとに、1日2時間を意識する。

(5) お互いを「先生」と呼称するのはやめよう。